



## 福田内閣誕生! ～「30人31脚」に学べ～

「一人では何もできない!」と言うことを今回の安倍首相の辞任にみた。ちょうど1年前安倍内閣は誕生し、発足当時71%という高い内閣支持率(歴代2位)を得、小泉政権の「ひずみ」地方と都市の格差是正を期待したが短命内閣で終わった。その原因は、首相を支えるべき大臣が「政治と金」や「問題発言」で次々と4人が辞任したからだ。

9月12日、突然の衝撃的な安倍首相の辞任は、議会中の我々を驚かせた。8月に内閣改造を行い、9月10日の臨時国会初日に政権を継続していく所信表明演説をし、代表質問を受ける直前になっての辞任表明は不可解きわまりない…!

こういう状況で誕生した福田内閣を国民は、期待する人、ぱっさりと切り捨てる人、無関心な人と100人100様だ。

一連の騒動やドタバタ劇に少しうんざりしていたが、9月24日夕方5時過ぎに朗報が飛び込む。浦佐小学校PTA北村会長の声「100分の1秒差で、浦佐小学校が優勝した。全国大会へ出場だ!」と。ピックスワンで「30人31脚の新潟県大会」が開催され出場23チームのトップにたつたと弾んだ声。



決勝での走り、チームワークで得た栄冠!!

夏休みを返上し毎日の練習、団結と和、そして友を信じたチームワークの勝利だ。町内の石田さんにお祝いの電話を入れると、おばあちゃんが出て「テレビで応援していたが、身震いがするほど感動した。本当に頑張った」とうれし涙で話してくれた。

今の政治家に感動する人がいるだろうか…。派閥や党利党略が優先し、市民が安全で安心して暮らせるという視点でのチームワーク(政党を越えて)は政治の世界では考えられないのか!

二大政党は、理念・哲学が違ふと言ってしまうればそれまでだが、まつりごとをするに、「30人31脚」に多くの学ぶところがあると思った。

## 9月議会 ～市の台所7億円の赤字～

9月議会は「決算議会」と言われ、18年度決算審議で市長と応酬する。

一般会計・特別会計の歳入合計は595億円、歳出合計は602億円で、7億円の赤字決算だ。赤字の水道会計、病院会計は内部留保資金で補填し、老人保健の赤字は、19年度予算で補正計上し補填した。

基金(貯金)残高は、一般会計で46億円合計で57億円。

借入金(借金)残高は、一般会計で400億円、下水道会計326億円、水道会計201億円、病院会計13億円、合計で940億円。その他に土地開発公社で15億円、債務負担行為で25億円。それを併せると980億円約1000億円の借金だ。

一般会計は、5億円の黒字となったが、少雪のため道路除雪費が17年度に比べて8億円減となっている事からで、厳しい財政状況は変わらない。

財政指標から見ても、実質収支比率と財政力指数は17年度より若干改善したが、経常収支比率・公債費比率・起債制限比率・実質公債費比率・公債費負担比率と17年度より悪化している。そして適正と言われている数値内に入っている項目は無い。

年間予算(約600億円)の約2倍の借金がある事を念頭に置き、財政がこれより悪化しない仕組みを作り、優良債の合併特例債を活用し市民の要望に答えなくてはならない。市長の手腕に期待すると同時に議会の責務は重いと痛切に感じる。

# ● 一 般 質 問 ●

先に通告致しました2点について質問いたします。

## ■ ■ ■ 魚沼100kmのマラソンの創設について

9月3日に、第21回浦佐温泉耐久山岳マラソン・健康歩こう大会が1700名からの県内外からの参加を得て、盛会のうちに終る事ができた。今年も遠くは北からは宮城、秋田、南は大阪、高知、鹿児島からの参加があった。この大会を支えているボランティアをはじめ関係団体、そして協賛各位の皆さんに改めて感謝いたします。

21回の大会の中でいろいろなことがあった。

選手が酷暑のため体調を崩し、不幸にして亡くなった時は、頭が真っ白になった。そして、中越地震で山の斜面が滑落し、山道のコース上数十メートルに渡り土砂の山で埋まり、何十カ所も寸断された時は、第19回大会の中止をはじめ次年度以降の開催さえも危ぶまれ、一番の危機でした。

21年前、浦佐の街の活性化になればと、手探りでこの大会を提案し立ち上げたとき、「山を二つも超える、きつい山道のコースに参加する選手がいるのか！経費は？交通止めは？役員は…？」又、役場からは「浦佐温泉」という冠大会に行政が支援するのは難しいと言われたり、多くの難題に遭遇した。第

1回大会で、マラソン369名・歩こうの部に281名の選手がスタートラインにたった光景は今でも覚えている。そして、多くの役場職員の皆さんが当日役員としてスタッフに入ってくれたのには感謝した。

10回目の節目の大会に二週のコースを提案したときも、「二週は無茶だ！」「役員に負担がかかる」等々の意見がでたが、101名の選手のエントリーがあったときは嬉しかった。

今年の二週の参加選手は212名、昨年が207名、一昨年が169名。全体の参加選手はここ数年1700名位で横ばいだが、過酷な二週のコースには選手が毎年増えてきている。昨年の20回大会から、二週を42.195キロメートルのフルマラソンの距離にするためコースを延長したら、選手からは歓迎された。

21回の浦佐温泉耐久山岳マラソンに係わった経験から、六万三千人の市民と一体となる100kmマラソンは、新たな視点から当市を全国に発信する事ができる。実りの収穫が終り、大収穫祭と連動し、日本一の魚沼コシヒカリをエネルギーに、全国の鉄人が八海山を仰ぎ魚野川や溪谷、兼続公の史跡や魚沼スカイラインの雄大な自然の中を走り抜ける。全国に29ある100kmマラソンの開催地にひけをとらない、ブランド力のある魅力ある大会になることは確実だ。

当市の新たな発掘と活力・発展につながると思うが、100kmマラソンを創設する考えはないか。

### 〈市長答弁〉

誘客等で魅力はあるがスタッフ・資金・交通止め等、多くの課題があるので検収し、その後に検討する。

## ■ ■ ■ 水田農業の将来について

昨日の牛木議員の一般質問で、企業が農業に制限付きで参入する事や、規模拡大で利益追求ばかりでなく、小規模農業の大切さや環境に配慮した、安全・安心な農業を目指すという市長の考えは賛成だが、



第21回浦佐温泉耐久山岳マラソン

29・30日	29日	27日	25・26・28日	19日	18日	16日	15日	14日	13日	12日	10日	9日	8日	7日	6日	3日	2日	1日	31日	30日	29日	28日	27日	26日	25日	24日	22日	21日	20日	19日	18日	17日	16日	15日	14日	13日	12日	11日
稲刈り教室	KJ運動会	浦佐菊まつり実行委員会	西山協議会集落説明	井口市長後援会大和	裸押合い大祭役員会	八色の森公園葡萄祭り	多聞クラブ反省会	JR駅からハイキング	社会実験実行委員会	議会運営委員会	大和地区協議会	桜井新国会議員 任期満了を祝う会	浦佐地区敬老会	KJ6期保護者会	大和中学運動会	社会厚生委員会	ワークショップ会議	第21回浦佐温泉耐久山岳マラソン大会	2日	1日	二地域居住講演会	JAN新潟政策研究会	つつじクラブ勉強会	大和地区発足準備会	南魚障害者福祉後援会	浦佐地区市民運動会	議会運営委員会	魚沼川流域交流ネットワーク・鮎丸かじりの会	中越地区市議会合同議員研修会	第18回南魚地区福祉大会	海外研修結団式	大河ドラマ議員会役員会	関常幸後援会夏季研修	西山協議会役員会	打ち合わせ	新町生ビール大会	流域交流ネットワーク	マエタケ環境会議

施策を持って進めてもらいたい。又、阿部議員の「除草剤散布により田んぼの農道・畦畔が赤く、消費者が不安がっており、“農道・畦畔に緑を”」という事に対し、市長は、安全・安心という観点から大切さは認めながらも、条例を作り指導することはなじまないと答弁した。

日本一の魚沼コシヒカリだ、安全安心は当たり前で、指導を強化しても田の畦が除草剤で赤くなっている状態が減少しないようであれば、行政の役割として、条例での規制を考えることも必要だ。

さて、8月20日、19年産米のコシヒカリの仮渡し金がJA全農より示された。魚沼コシヒカリは昨年より2,000円安い18,000円。一般コシヒカリは10,000円で、昨年より5,000円の低下。このことに対し、農家はトラクターを連ね「抗議パレード・米仮渡し金大幅引き下げに対し訴える」の記事が9月5日の新潟日報に載る。翌日9月6日の日本農業新聞には、「19年産米の入札“2回目も不落札”」の記事。

この出来事が、今、国が進めている「米政策改革大綱」によって国の指導通りに米作りを行ってきた結果だとしたら、日本の米作り農家に将来はあるのだろうか…。

米政策改革大綱とは「水田農業経営の安定と発展に向けて2002年に決定した法律。米づくりの本来あるべき姿と、それにいたる手順や期間、需給調整や流通改革の方向などを示した」もので、国は2010年を目標に「米づくりのあるべき姿」の実現を目指している。そのあるべき姿とは、①売れる米づくり②農業者や産地が自らの判断で生産調整をする③担い手に米作りの大半をまかす、というのが国が描いている姿で、いま、この方向で動き米作りをしている。

又、9月6日の日本農業新聞に、米の国際価格・5年前の2倍の記事。世界の米生産量は、日本の生産量の50倍に当る4億ト。貿易量となると全体の1割以下の3千万トン弱しかなく、米の国際市場は不安定で常に価格変動が起こりやすい。今年のように外国産米が高くなり、国内産米が安くなれば、外国産米を輸入する商社は国産米への需要が高まる可能



(南ウラコウ 60haの農業法人)

性もある。

このように、これからの米作りは常に外国産米の影響を受けながら、国内での激しい生き残りをかけた米づくり、産地間競争がスタートしている。こういう厳しい環境の米作りの中で、今年1月に市長は、南魚沼市の進むべき方向「農林水産ビジョン」を打ち出した。

改めて市長に伺う。米余りと米価の低下が続く中で、コシヒカリを作り、百姓で食っていける水田農業の施策を示せ。又、昔から若い者には旅をさせよとの格言がある。市を担う農業青年の育成について市長の考えを伺う。

### 〈市長答弁〉

厳しい米環境だが、美味しくて、安全・安心の努力を怠らなければ、魚沼コシヒカリは不滅と思っている。ここ数年販売の取組みが命。JAと一体となり、稲作の生き残りをかけた戦いをする。

稲作で生計を維持して行くには7割以上の耕地面積が必要。そのために専業農家や農業法人に農地の集積や借地料、農業施設や機械への支援を行う。

今回市内の農業青年が7日間のアメリカ研修にさいし、出発と帰国時に挨拶に来た。農業青年はアメリカの技術、大きさに驚くのではなく、アメリカ農業者の考え方、気構え、心構えを学んできたようだ。アメリカ・世界という広い目を養うことから奨励をしていきたい。

## 活動日誌

- 7月
  - 1日 南魚沼市防災訓練
  - 2日 後山地区市政懇談会
  - 3日 浦佐地区市政懇談会
  - 4日 南魚地域振興局 農林振興部懇談会
- 6日 兼統公史跡探訪
- 8日 浦佐夏祭り協賛会
- 9日 公民館33番観音巡り
- 10日 社会厚生委員会視察
- 12日 (参議員告示日) 塚田一郎後援議員会
- 14日 KJ八色七夕交流会
- 16日 魚沼コシヒカリ 品質向上技術研修会
- 19日 浦佐夏まつり
- 21日 選挙事務所当番
- 22日 大和支部選挙会議
- 23日 33番観音様会議
- 24日 大和文化財連絡会
- 25日 三国街道散策
- 26日 江戸川区立春江中学 農村体験
- 25日 裸押合い大祭委員会
- 26日 毘沙門通り懇談会
- 27日 佐藤候補千人集会
- 28日 浦佐西山協議会準備会
- 28日 兼統公学習会
- 29日 自民党大和役員会
- 29日 (参議員投票日) 社会厚生委員会
- 30日 JA新潟政策研究会
- 31日 葛西第3中学ホームステイ
- 31日 江戸川区立
- 8月
  - 4日 5日 一日一休さん
  - 5日 毘沙門天夏祭り
  - 6日 直江兼統公勉強会
  - 8日 本町区毘沙門通り常会
  - 9日 参議員選挙セミナー
  - 10日 浦佐西山協議会設立総会

# 「関常幸後援会」 夏期研修会

## ●直江兼続公史跡巡りと バーベキュー大会



樺沢城三の丸跡から本丸を目指す



坂戸城城壁

2009年・再来年1月から放映されるNHK大河ドラマ「天地人」の主人公、直江兼続公の史跡めぐりを計画したところ「直江兼続公」を知らないという方がほとんどであった。参加者の方から「あの徳川家康、豊臣秀吉の戦国の時代に、

一般にはほとんど知られていない武将（六日町坂戸で生まれた直江兼続一幼少名は樋口与六）が、何故NHK大河ドラマの主人公になったのか不思議でならなかった。この「兼続公史跡巡り」は良かった。理解できた。」の声に、お忙しい中説明・案内をして下さった、龍澤寺の住職様、樺沢城跡保存会の高橋さん、上田史談会の大島さんに改めて感謝申し上げます。

浦佐にも「薬師様」で親しまれている山が「浦佐城（浦沢城）」で、その時代上田長尾の重鎮の山城で、一級品の山城・史跡だそうです。薬師様・浦佐城がすごい「宝物」であることを知らされ、この浦佐城跡をみんなで整備し保存しなくてはと思った。

史跡巡りは33名、バーベキュー大会には50名を越える多くの参加者があり楽しい、有意義な一日でした。



龍澤寺の宝物に見入る



地域の活性化と皆さんの健康を祝してカンバイ!



調理人・北村洋成後援会長

### 来者如帰

来る者帰るがごとし

毘沙門通り懇談会事務局  
浦佐西山協議会事務局

羽賀 不二夫



現代は、利益・効率優先される中で、日本の古き良き伝統文化を大切に、NHKの朝ドラ「ごんごんと晴れ」も9月29日で最終回を迎えた。そのヒロイン夏美さんの「笑顔と前向きで明るく人を信じる」姿にも爽やかな気持ちにさせられた。

ドラマの中で、外資系の乗っ取りから老舗旅館「加賀美屋」の窮地を救ったのは、夏美さんの、相手を敬い、思いやりを持ち、笑顔で迎える、「おもてなしの心」と「家族の絆」であった。

私たちは今地域活性化のために、景観と街並みを考える「毘沙門通り活き活き再生懇談会」を立上げ、また、33番観音の整備と里山整備をめ

ざす「浦佐西山協議会」を設立しました。さらに、毘沙門堂参拝者にお茶出しをする「おせっいたいの会」も活動をはじめています。このように、今「毘沙門堂」を核として、いろいろな会が組織され活動はじめてのを見ると、浦佐西山地域に少しづつですが変化の胎動が感じとれます。

この地域には国宝級の神社・仏閣があるわけがなく、歴史を感じさせる街並みが残っているわけではないけれども、NHK朝ドラ・夏美さんの、笑顔と来者如帰、「おもてなしの心」で、来訪者・参拝者に接することがより大切で、それが「宝」です。その思いによって、人が人を呼ぶという良いサイクルが生まれ、ひいては地域の活性化につながると確信しています。最後に「毘沙門通り懇談会」「西山協議会」へはいつでも加入できます。多くの方の参加をお待ちしています。連絡は「加賀美屋」……ではなく、「加賀屋」まで。

### ●編集後記●

30人31脚の新潟大会決勝6チームに、当市から3チーム（北辰小学校が2チーム）が勝ち残り南魚沼市の心意気を示してくれました。選手、先生、保護者の皆さんありがとうございました。そして浦小の皆さん、11月に横浜で開催される全国大会すばらしい思い出をつくってください。みんなが応援しています。稲刈りも終わり、秋本番となり朝晩冷え込みますので、健康には「留意下さい」。